

カイニヨ掃除、今年も公募でやろう

5月24日(土)午後、チューリップ公園内中島家で、カイニヨ倶楽部の総会を開いた。16名が参加した。総会の後「出町とまちづくり」近江俊郎氏の講演を聞いた。

冒頭、柏樹代表幹事があいさつした(別掲)。天野事務局長が進行し、平成25年度の活動報告と決算、平成26年度の活動(①総会(5/24)、①屋敷林見学会(7/19)、①立山方面を訪ねる旅(10/18)①カイニヨ掃除(平成27年4月)について提案し、相談した。

総会でだされた主な意見

○カイニヨ掃除の案内をラジオでして応募のあった家の中から選び実行した。活動をオープンにし、広める一つの工夫である。

○立山方面の小旅行は大型バスが良いし、それに見合う参加者を募ろう。

○スギの枝おろしについて——マッチ棒状の形は施主の希望からというが、スギの力や特性を考え、業者には冷静に判断した処理をしてほしい。

○スギは枝ぶりにあった根を張る。マッチ棒状にすると200年のスギは残らないし、スギの命が絶たれる。

○市からの助成金にもペナルティがあってしかるべきだ。枝ぬき、枝すきを取り入れるとよい。

○スンバや枝葉を燃やすには最善の注意をすること。

○7/19の屋敷林の見学会は高瀬方面を考えている。空家で長い間無住になっているカイニヨも参考にしたい。

○「カイニヨ手入れ支援隊」の活動と協同するかどうか。支援隊は小矢部園芸高校の実習として高木の枝おろしもする。

○共同して実行することも良いが、一年くらい状況をみて結論を出そう。

今年それぞれの思いでカイニヨ掃除・手入れの作業をしよう。

○倶楽部として、過去の経験を生かし公募でやろう

×

×

×

記念講演は約1時間。おおみ設計所長の近江俊郎氏の「出町とまちづくり」を聞いた。建築設計者として地域全体を考えたデザインや将来性、公共性、人間のかかわり方にまでふれた中身でたくさんの示唆をいただいた。大変斬新な提起に感銘した。4時過ぎに終了した。

〈柏樹代表幹事の挨拶〉

- 富山市、深山隆明さんからカイニヨ倶楽部事務局長へ入会の申し込みと合わせ、カイニヨへの熱い思いの手紙が届けられた。発足から18年目の地道なとりくみが少しずつ広がっている証明ではないか。
- 過日、田園空間事業の総会に参加し、そこで、スギの強度の枝おろしの姿を定点調査することとあわせ、マッチ棒状枝おろし業者への指導をもとめる、発言をした。加えて、ミュージアムへは、地域の人々の出入りを大きくする取り組みを求めた。ミュージアム敷地の管理に、老人会、グリーンキーパー等が参加する道も考えられないだろうか。
- 今年の行事は、月・日を明示した。一人でも多くの参加者を求めての試みである。役員改選は、来年であり、新しい力への配置も考えあっている。

■平成26年度事業

- ・ 5月24日(土) 総会と講演会
- ・ 7月19日(土) 南砺市西部の屋敷林見学と文化を訪ねて
- ・ 10月18日(土) 立山山麓の樹林と歴史を訪ねる集い
- ・ 27年 4月 カイニヨの掃除



総会後の講演会の様子

【講演の要旨】「出町とまちづくり」 おおみ設計所長 近江俊郎氏

- 砺波の中心である出町の“まちなみ”が元気であることが、まわりの散居の活気につながる。
- 40年余り思いをこめ創ってきた。それがあっけなく壊され全く別のものに変えられる。施主からの要望にも応えつとめた。一体何をしてきたのか疑問を感じる。
- 建築物の寿命は日本は27年、イギリスは140年、外国のどこよりも日本の建築物の寿命は短い。
- 建物は機能と社会性の組み合わせでつくられる。また、景観を良くしたのも悪くしたのも専門家ではなかろうか。
- 出町も40年ほどの間にすっかり変わってしまった。道路を中心に変わった。国道の2本がまちと離れてしまった。国道からまちに入るポイントとなる道が不明になった。出町の手足がもぎとられてしまった。高速道、空港など便利なまちなのに中心部の元気がなくなっている。
- まちが再生しないと砺波全域の元気はとりもどせない。
- チューリップフェアと子供歌舞伎のリンクや、まちなかの宝（建物や文化）を大いに生かす道が求められる。まちなかの土蔵や史跡、神田邸等、たくさんの掘り出しものがある。
- 市民運動として財産を守り、活かす動きが大事。なかなか身銭をきってやることは大変だが、そのための知恵を出し合おう。
- フェアとまちのつながりの工夫が必要だ。曳山会館とフェア会場をモールを作りつなげる。フェア会場に入った人の1割がまちに入るとまちは変わる。

- 仕掛が大事だ。たとえば
 - ・それぞれの友好関係のメンバーを誘う。いろんな大会、総会を積極的にやって人を呼び込む
 - ・砺波出身者のネットワークの活用——ふるさとに心をはせている人は多い
 - ・パブリックアートに散居は最良の場——不自由な場で企画することがよい
 - ・芸術家のまちにして人を呼びこむ
 - ・人と人の付き合い、ふれあいが力になる
- 「ものがたり診療所」の佐藤先生の活動をまちの中心地において、終末の人生を楽しく生き抜いてもらうことも時代の求めではないか。
- 砺波人は付き合い方、招くこと、良さを自慢することに控えめすぎる。
- 日常使っているものが根づいていることに人はひかれる。
フェアで人を招く規模、内容においてまだまだ貧弱だ。四季を通じて人を集める、注目される本物の中身にする必要がある。出町のまちの中を生かし、散居とカイニヨの存在を生かすこと。
- ライトアップ、レンタルサイクル、そのためのコースやポイントの整備も必要だ。
- 誰も美しいまちに住みたい思いをもつ。散居村は世界遺産に匹敵する。安らぎをおぼえ、人間らしい生き方のできる場だ。

- 空家対策も重要——空家で住める家は3分の1、100戸ほどだ。価値あるものを使い続けるために専門家の力を借りて対応することだ。
- コンベンションするまちとして外国人は砺波の印象を“綺麗”。砺波の住民はあたりまえに思っているが、つくられたものではない本物の良さ、深さに気づいていない。
- おもてなしの基地にしよう。世界で北陸が4番目にランクされている。まちづくりをする若者の意見を活かす——交流と創る楽しみを交換しあう。
- ある町でまちの中心に大衆風呂を作り、そこで各商店、食品店のつくり物、料理を注文し、食事できるまちなかのくつろぎの場として成功している。
- 金がなくてもやれる。金は出したいように仕掛ける。みんなで共同してやることで道は開ける。毎日1人1円貯金する。5万人の人がやると1日で5万円、1年であるいは10年で驚くほどの資金になる。
- カイニヨ倶楽部も若い人を呼び込む智恵を出そう。

(近江俊郎氏も倶楽部の会員)

■事務局より

1. 会費が2000円になり、退会者が殺到するのではなか？心配でした。

実際、数名の退会者がありましたが、会費の値上げが原因ではなく、他の理由でした。

しかし、1年納金を遅れると翌年は4000円になり大きい金額です。心配は心配で

す。役員会では再度1000円や1500円案も検討しましたが、今回変更しないことになりました。

2. 5月27日午後2時過ぎ、KNBラジオで4月に行いましたカイニョの掃除の話をしました。その際、掃除も大変ですが、集めた、枝葉等の処理について特に時間を頂きました。

- ・枝葉等をゴミに出す案——自然との共生時代、最もおかしい。
- ・業者に依頼案——費用がかかる。

最終的に、田んぼで燃す案——風下に配慮し、火の管理と始末をしっかりする。

- ・提案として、田んぼで燃せない方もいるので、枝葉等を燃料に加工し、公共や一般の場でストーブ・ボイラーに使う事を。

本来、散居村は共有の財産で有れば、カイニョも同じ。よって、住民に、少し協力して欲しいのです。

3. 現在のカイニョの役割

昔のカイニョの4つの役割（燃料、防風林、建築資材、食料や薬）は、ほぼ無い。

確かに景観に意味は有ると思いますし、植物、昆虫、小動物の生死の世界での情操教育の場としては有ります。

他に大切なのは、先人の知恵の固まりなのです。例えば、4つの役割をコンピューターの無い数百年前に1年以上後の事を考えていたからこそカイニョが出来たのです。現在、半年先さえ解らない時代です。昔の人は知恵の固まりです。この知恵を語り伝えるためにカイニョが有ると思いますが。

当地の知恵のシンボルです。

カイニョをテーマに1時間話をしてみてください。子供達に話せますか？ 外国人が

来たときに、飛行場からバス中で説明して下さい。小生も勉強します。